KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立自走式キャリー動力噴霧機

VSC3510
VSC4510

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2002/11

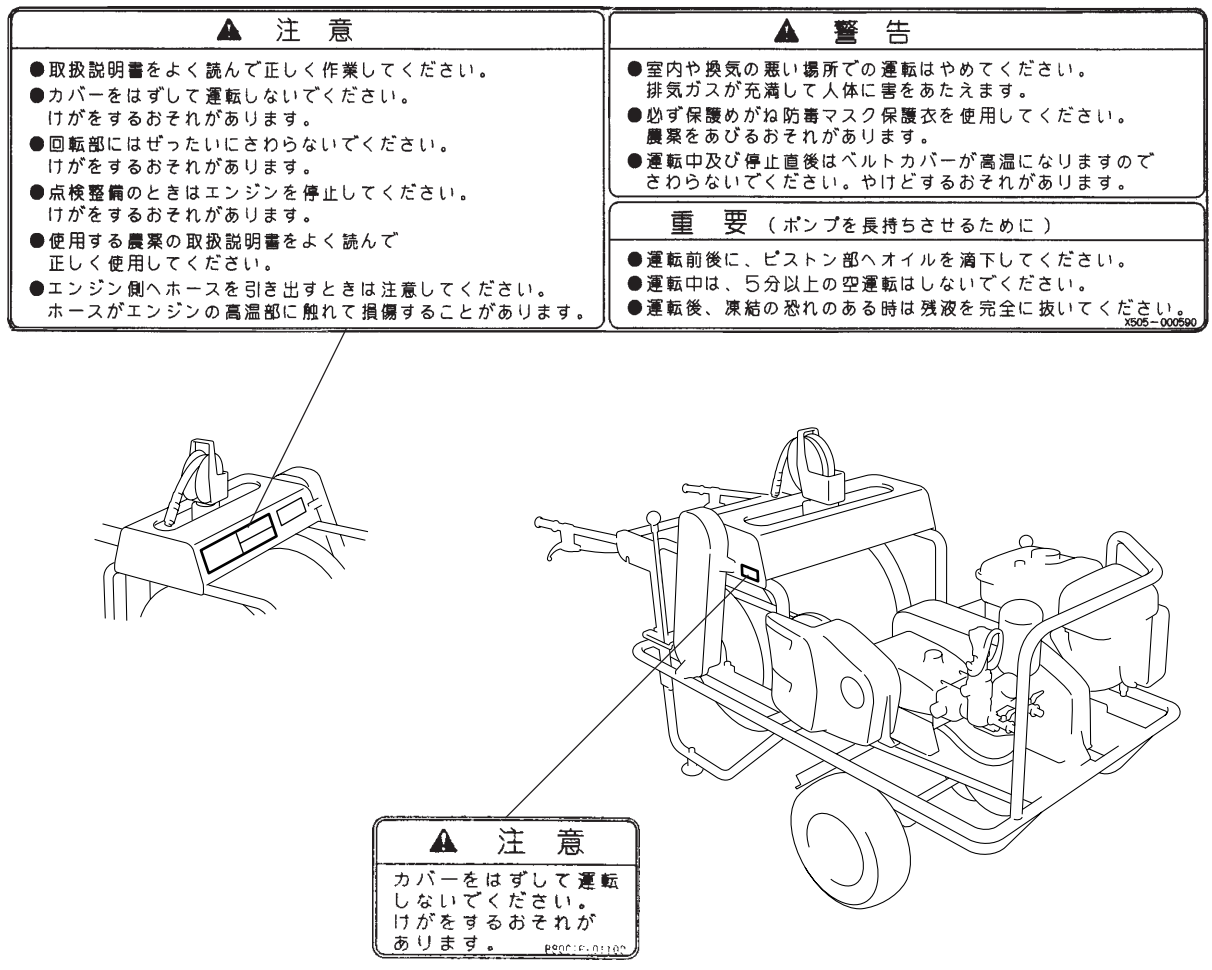
⚠ 注　意

- **この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。**
- **この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。**
- **この取扱説明書で解説している機械を、貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。**
- **製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。**
- **ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。**

警告表示ラベルについて

- **この取扱説明書で解説されている機械には、下記の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に下図で確認し、ラベルの意味を理解してください。**
- **万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店より新しくラベルを購入し、下図に指示してある箇所に貼り、常にラベルが読める状態を維持してください。**

警告表示ラベル



VSC3510-01

はじめに

共立自走式キャリー動力噴霧機をお買い上げいただき、ありがとうございます。

- この自走式キャリー動力噴霧機をこの取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。
- この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。
- エンジンについては、付属のエンジンの取扱説明書にしたがってください。

目 次

はじめに …… 1
各部の名称 …… 2
正しい作業のために …… 4
組立 …… 10
運転前の準備 …… 10
操作方法 …… 13
輸送・移動時の注意 …… 18
点検・整備 …… 20
長期保管 …… 25
かくはん機を取付ける場合 …… 26
故障対策 …… 27
仕　様 …… 29

・説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
・単位はＳＩ単位を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

⚠ 警　告

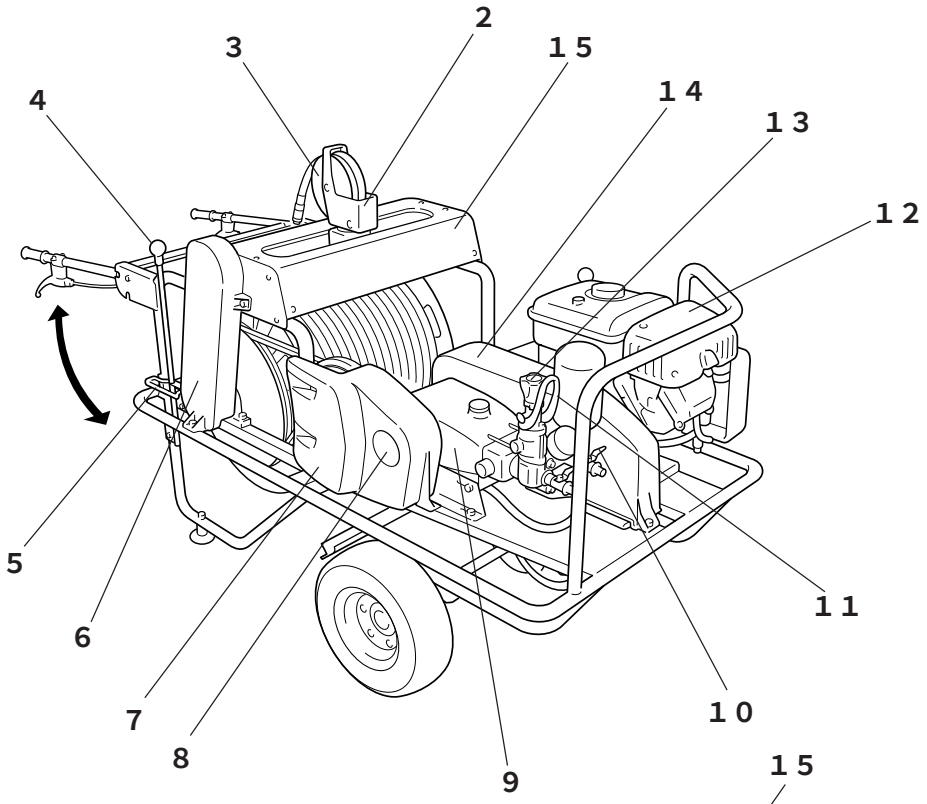
- 正しい作業のための警告・注意を注意深くよく読んで理解すること。
- 正確で正しい操作のために、この取扱説明書を必ず読むこと。

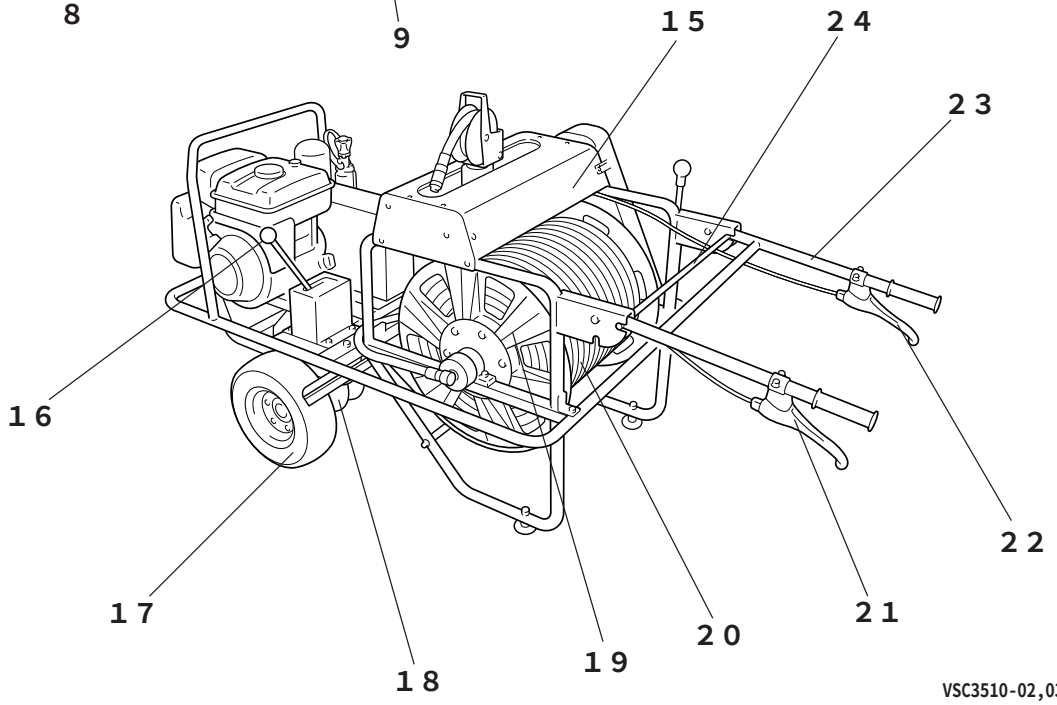
丝 丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

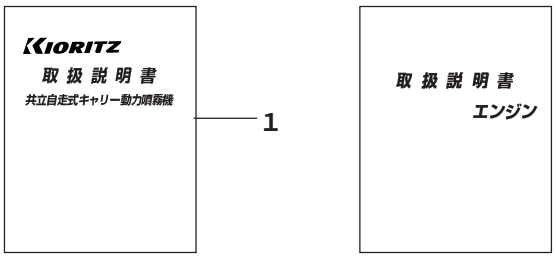
重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

各部の名称



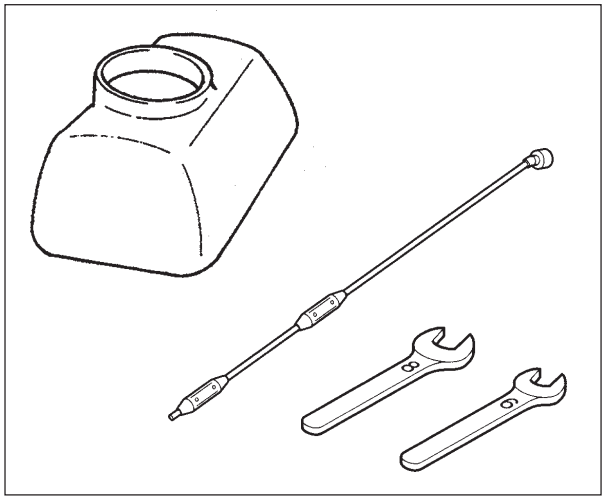


VSC3510-02,03



各部の名称

１．取扱説明書	——	機械をお求めになったとき必ず付いています。 機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再度確認する場合に備えすぐ取出せる場所に、必ず保管してください。
２．ホースガイド	——	スプレーホースの巻取り、引出しのガイドをします。
３．案内ローラ	——	ホースの巻取り、引出しに使用します。
４．ホース巻取りレバー	——	スプレーホースの巻取りをします。
５．ストッパ	——	ホース巻取り、ホースリールブレーキおよび解除などの切替えをします。
６．チェーンカバー	——	チェーンをガードするカバーです。
７．リールベルトカバー	——	ホースリールのＶベルトをガードするカバーです。
８．かくはん用動力取出し口	——	オプション部品を追加することにより、市販のかくはん機を装着できます。（かくはん機は右回転用）
９．動力噴霧機（ポンプ）	——	薬液を吸込み、加圧し送り出します。
１０．動力噴霧機吐出コック	——	散布作業時「開」にします。
１１．調圧レバー	——	レバーを上げると無圧状態になります。
１２．エンジン	——	ガソリンエンジンです。
１３．調圧ネジ	——	動噴の吐出圧力を調整します。
１４．ポンプベルトカバー	——	動力噴霧機、走行用のＶベルトをガードするカバーです。
１５．トラバースカバー	——	ホース並列巻装置をカバーします。
１６．ポンプクラッチレバー	——	動力噴霧機の運転・停止を行ないます。
１７．走行タイヤ	——	エンジンをかけ走行クラッチレバーを握ると走行します。
１８．ミッション	——	エンジン回転を減速させ、タイヤを駆動させます。
１９．ホースリール	——	ホースの巻取りに使用します。
２０．スプレーホース	——	散布用のホースです。
２１．走行クラッチレバー	——	握ると走行します。
２２．ブレーキレバー	——	握ると走行タイヤを停止させます。
２３．ハンドル	——	移動するときに起こして使用します。
２４．ハンドル固定レバー	——	ハンドル固定レバーを握るとハンドルが下に折りたためます。



お客さまがご用意するもの

スパナ（６mm、８mm用）、ノズル、コック、薬剤タンク

● ノズルの選択について

ノズルの吐出量が動力噴霧機の吐出量より多いと適切な噴霧作業ができません。ノズルを選ぶときは仕様を確認し、余水ホースから戻る薬液量が全吐出量の１０％以上になるようにしてください。

ご不明な点は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

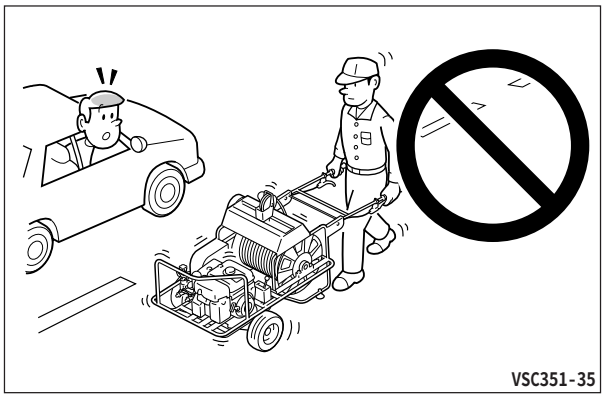
正しい作業のために

⚠ 注　意

作業計画を立て、この取扱説明書を参照し、適切な部品を選んでください。作業に合わない部品を使うと、動力噴霧機が故障したりご利用になる人がケガをすることがあります。ご不明な点は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

重　要

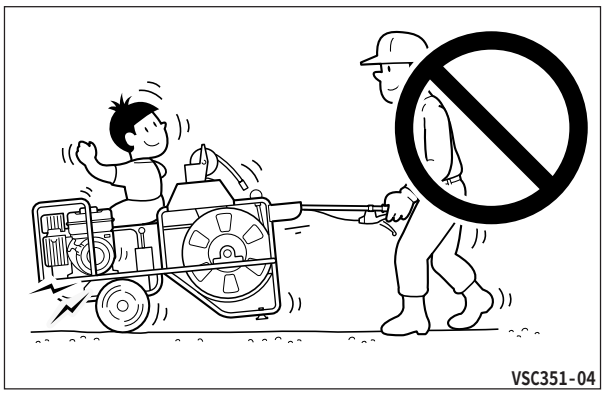
この動力噴霧機の仕様は一般農薬用です。特殊農薬や多種農薬混合を使用する場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。



VSC351-35

⚠ 警　告

自走式キャリー動力噴霧機で一般道路を走らないでください。



VSC351-04

⚠ 警　告

自走式キャリー動力噴霧機に人や荷物を乗せて走行しないでください。



VSC3510-11

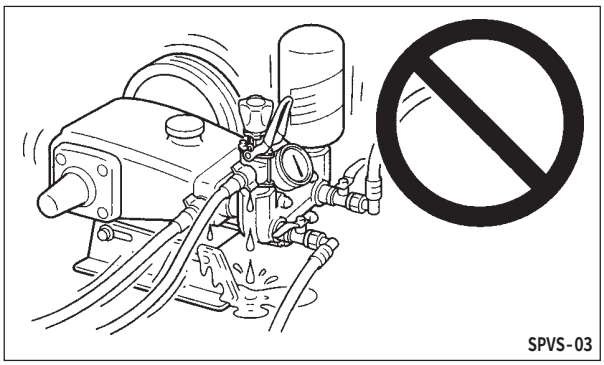
⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。



からだの状態

● 病気のときや体調が悪いとき、妊娠中の場合、また､アルコールや体の機能に影響をおよぼす薬を飲んだときには作業を行なわないでください。

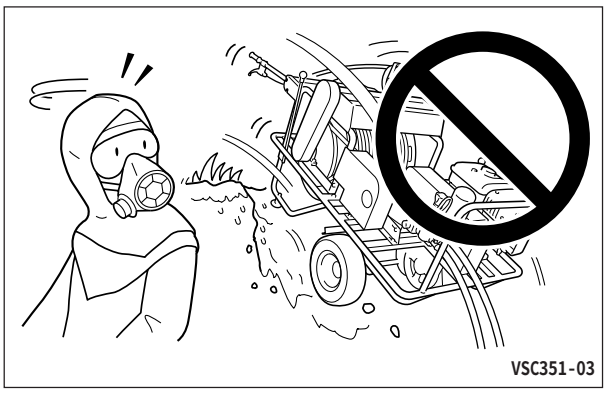


作業前の点検

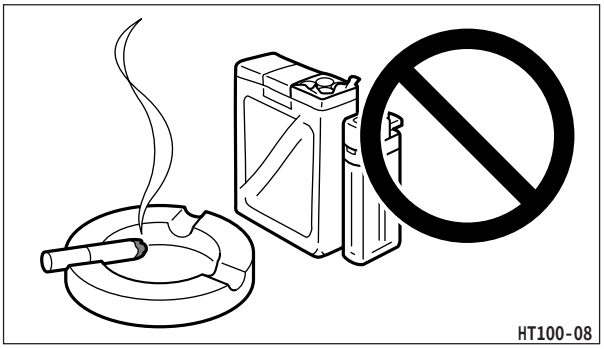
● 各部品がきちんと取付けられているか確認してください。ホースの取付けなど配管部が正しく締付けられていないと、空気の吸込みや内部液が漏れることがあります。



● 子供が近くにいないことを確認してください。



● 動力噴霧機を不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。



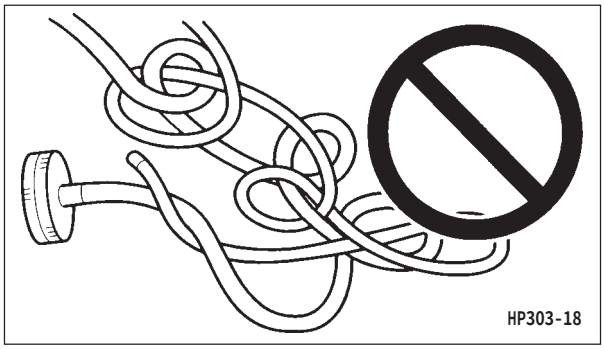
⚠ 警　告

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

作業中の注意

重　要

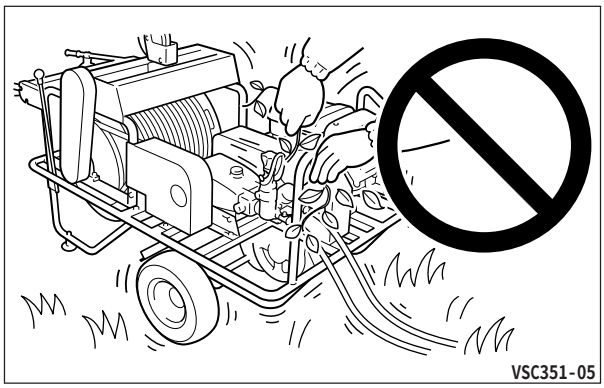
５分間以上､カラ運転を行なわないでください。
ポンプの寿命を縮め、故障の原因となります。



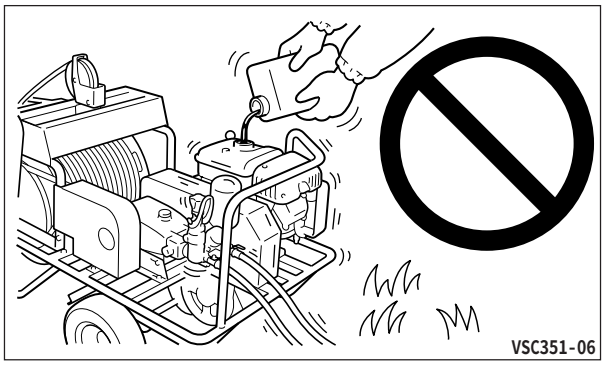
● ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。

重　要

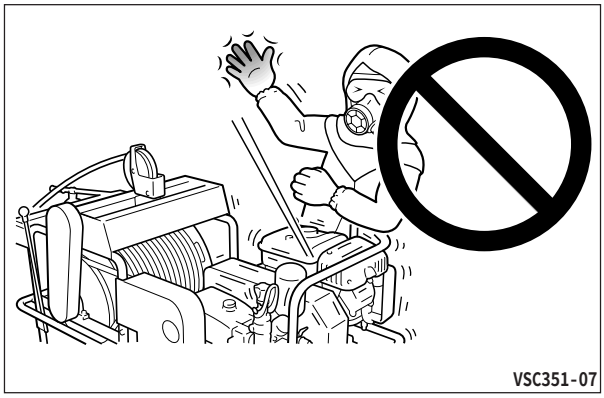
大型貯水槽や河川から吸水し､長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け､抜けてしまうことがあります｡ポンプの故障の原因となりますので、２時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し､余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。



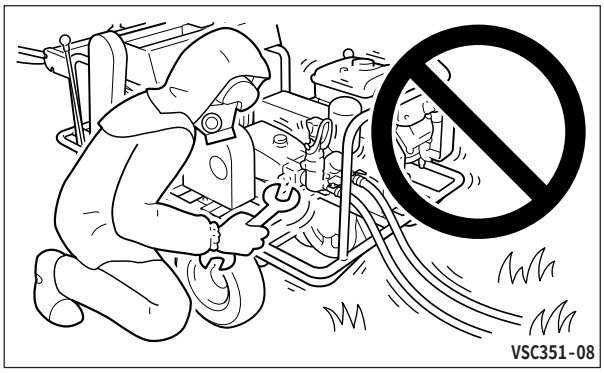
● 動力噴霧機やエンジンに絡み付いた草などを取除くときは､必ずエンジンを停止してください。



● 燃料を補給するときは､必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行なってください。

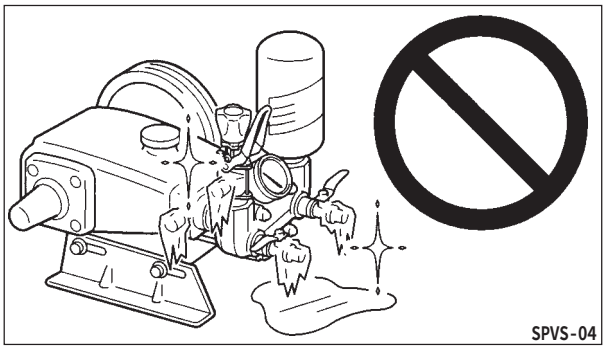


● 運転中は回転している部品（Ｖベルトなど）や高温部（エンジン、マフラなど）に触れないようにしてください｡停止直後のエンジン､マフラはたいへん高温です。手を触れないようにしてください。



保守・保管の注意

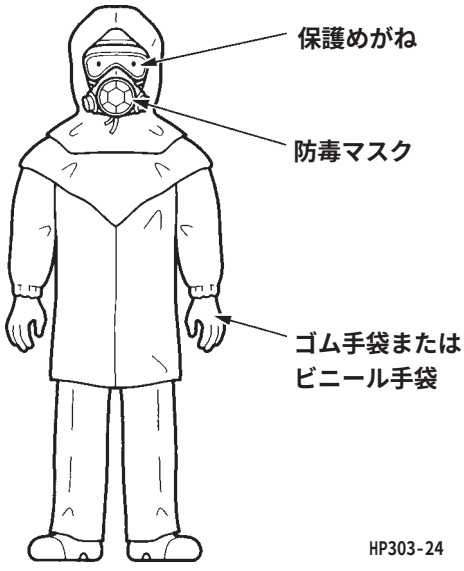
● 修理、清掃などの作業を行なうときは、必ず運転を停止してください。



● 保管する前に必ず水を抜いてください。冬期には凍結することがあります。

⚠ 警　告

適切な服装、保護具を身に付けないと事故が起きることがあります。正しく作業するために、かならず適切な服装、保護具を身に付けてください。



服装について

● 滑らない底が付いた靴をはいてください。つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。
● 農薬を散布する場合、頭、あし、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、農薬が皮ふに触れないようにしてください。
● 農薬が浸透しないような防水性、汗をかかないような通気性のよい衣服を身に付けてください。

農薬散布の保護具について

● 農薬を吸込まないために、防毒マスクを正しく着用してください。
● 目を保護するため､保護めがねを付けてください。
● ゴム手袋またはビニール手袋を使用してください。
● 農薬にかぶれやすい人は、保護クリームを顔、首、手首などに塗ってください。
● タオル、手ぬぐい、水などを、汗を拭いたり顔を洗うために用意してください。

農薬散布について

⚠ 警　告

農薬に関する法令および注意事項は、農薬の種類、使用する場所などにより異なります。そのため、この取扱説明書に農薬に関するすべての法令、注意事項を記載することはできません。お客さまが使用する農薬の使用方法、ラベル表示、関連する法令、注意事項をよく理解してから、散布作業を行なってください。

重　要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、ノズルの目詰まりの原因となります。

農薬散布前の注意

- **農薬のラベルには必要な注意事項が書かれています。いつも使用している農薬でもラベルの内容に変更がある場合があります。使用する前に必ず読み、その指示にしたがってください。**
- **薬剤を溶かすときは、防毒マスク、ゴム手袋、保護めがねなどの保護具を着用してください。**
- **作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。**

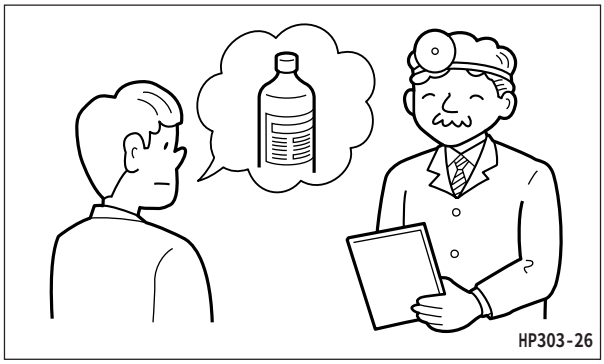
⚠ 警　告

風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ農薬が飛んでしまうことがあります。


HP303-25

農薬散布中の注意

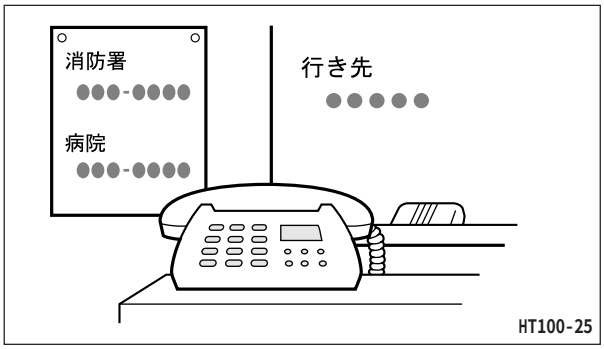
- **散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると農薬が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。**
- **農薬がからだにかかるのを避けるため、風下の方を向き、風を背中に受けるようにして、後ろ側へ進みながら散布してください。**


HP303-26

- **農薬の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。**
- **作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。**

⚠ 警　告

作業中、からだに異常を感じたときは、すぐに作業を中止し医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。



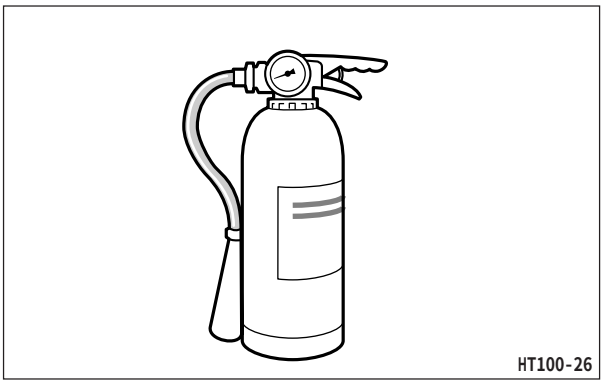
万一の事故に備えて

● 作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

・作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

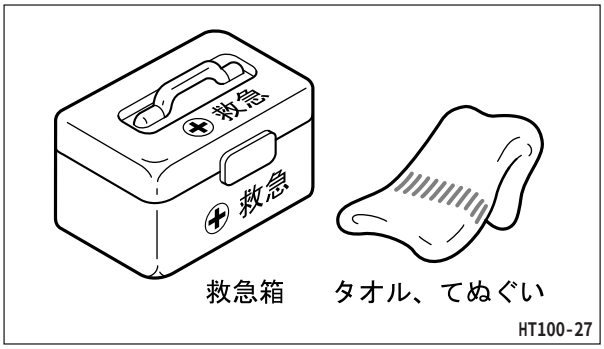


● 発火に対する備え

⚠ 警　告

作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず、機械から離れ自分の身体の安全を確保してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。



● ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや､てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

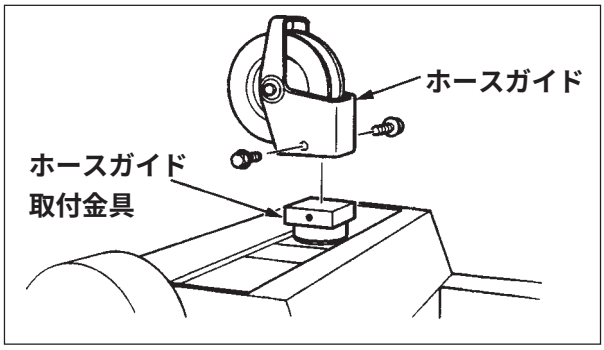
⚠ 警　告

作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医者に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

農薬散布後の注意

- **農薬が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。**
- **農薬が残ってしまった場合は、川、下水道などに流さないでください。周囲に影響がない場所に散布してください。散布用にうすめた農薬は分解が早いので、残さないようにしてください。**
- **農薬の空き容器はきれいに洗い、適切な方法で処理してください。**
- **農薬、器具の後かたづけが終わったら、手、顔など外部にさらされた場所を石けんでよく洗い、うがいをし、入浴をして全身をよく洗ってください。作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。**
- **農薬散布の後は飲酒をひかえてください。農薬を吸入した場合、体内の酵素の働きが低下します。このようなときにアルコールを飲むとさらに酵素の働きが低下し疲労の回復が遅くなります。**

組　立



ホースガイドの取付け

ホースガイドを組込み、ホースガイド取付金具に取付けます。

運転前の準備

重　要

工場出荷時には、動力噴霧機、エンジンにオイルを入れていません。動力噴霧機、エンジンの取扱説明書にしたがいオイルを給油してから、運転をはじめてください。

各部オイルを点検する

● 動力噴霧機、エンジンの取扱説明書にしたがい、動力噴霧機とエンジンのそれぞれのクランクケースに、オイルが指定レベルまで入っているか確認してください。

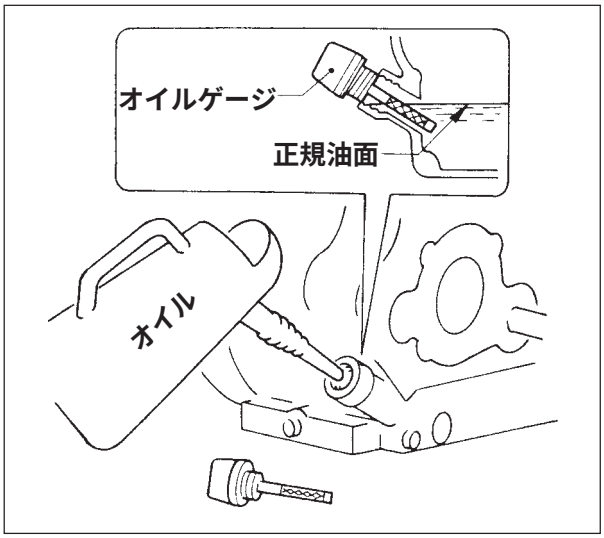
● オイルの汚れを点検し、汚れがひどい場合には交換してください。

エンジンオイルの補給

● オイルゲージを外し、正規油面までエンジンオイルを入れてください。（正規油面の位置は左図を参照してください。）

重　要

使用する前に必ずオイル量を点検し、正規油面までオイルを補充してください。



重　要

指定レベルより多く入れるとオイルが吹き出ることがありますので注意してください。

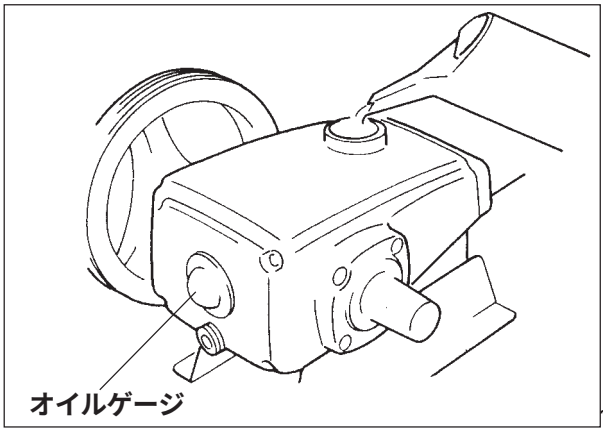
動力噴霧機の準備

● オイルの補給

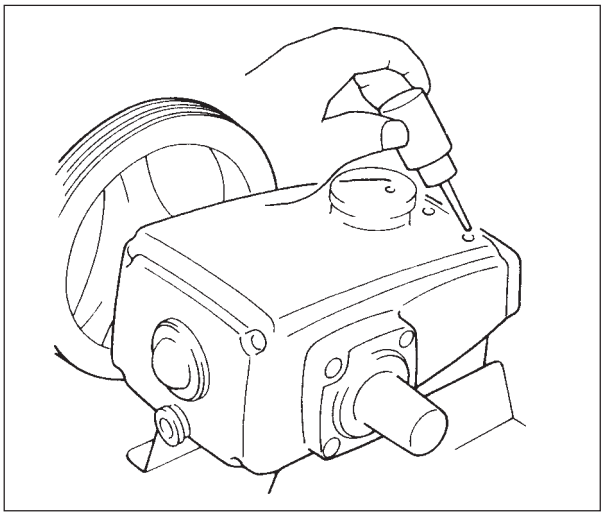
１．クランクケース注油口のふたを取り、オイルゲージの中央にあるマークまでエンジンオイルを入れてください。エンジンオイルはＳＣ、ＳＤまたはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用してください。

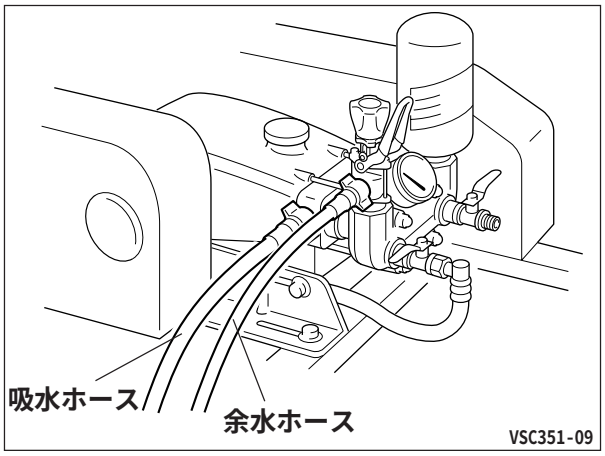
重　要

マークより多く入れるとオイルが吹き出ることがありますので注意してください。



２．付属のオイラの先を切り、プランジャ給油口から１０滴ほど給油してください。給油により、プランジャのシールの寿命が長くなります。





吸水ホース、余水ホースを接続する

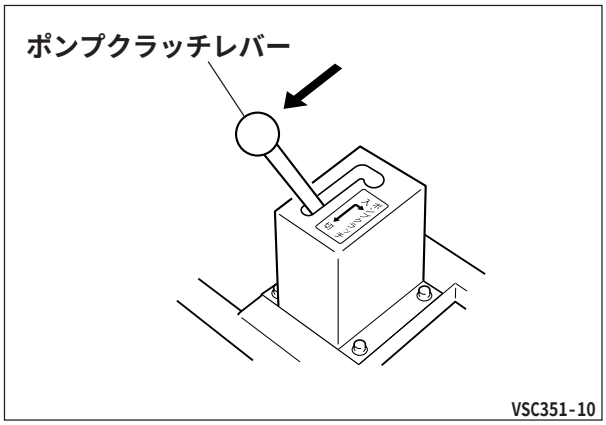
吸水ホースと余水ホースのネジは、機種によって同じものがあります。ストレーナが付くようになっているのが吸水ホースです。接続する前に確認してください。

吐出口の継ぎ手ネジはＩＳＯ規格です。旧タイプのネジを使用する場合は、あらかじめ吐出口の先に付属の旧ネジアダプタを取付けておいてください。

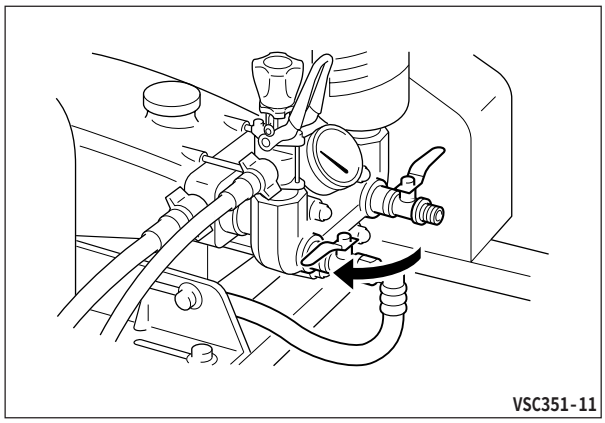
１．吸水ホース、余水ホースをそれぞれ吸水口、余水口へ接続してください。
吸水ホースはエアを吸込まないように、きちんと接続してください。

重　要

ホースを接続するときは、強く締めすぎないようにしてください。パッキンが損傷することがあります。



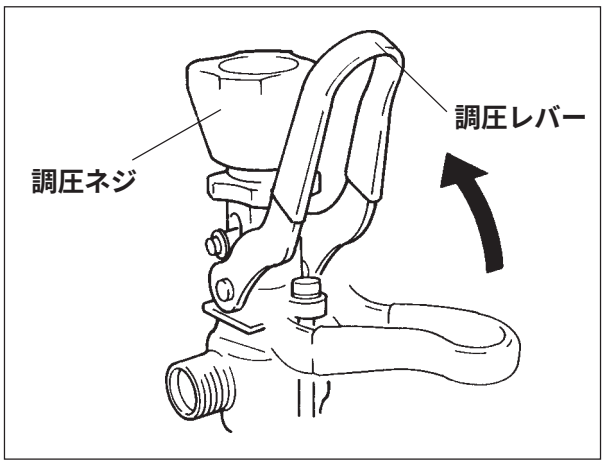
２．ポンプクラッチレバーを「切」にしてください。



運転

エンジンの始動まえに

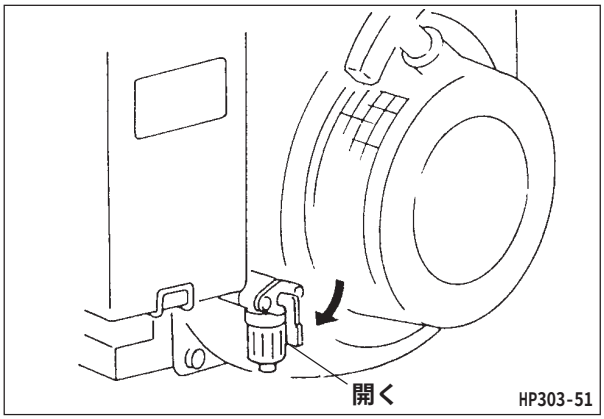
１．吐出口のコックをすべて閉めておきます。



２．調圧レバーを立ててください。

３．吸水ホースと余水ホースの先端を薬液の中に入れておきます。

操作方法



エンジンを始動する

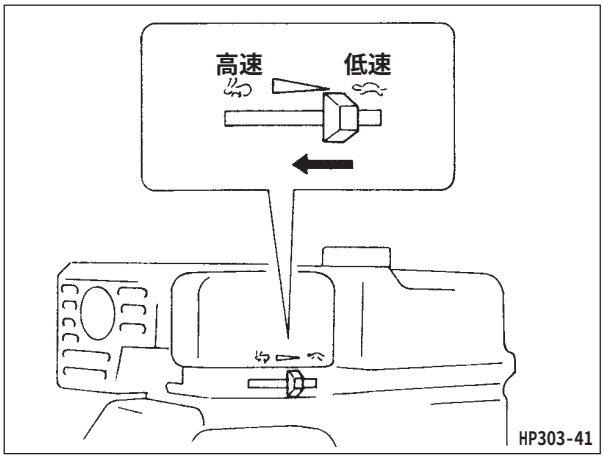
エンジンの取扱説明書にしたがって始動してください。

⚠ 警　告

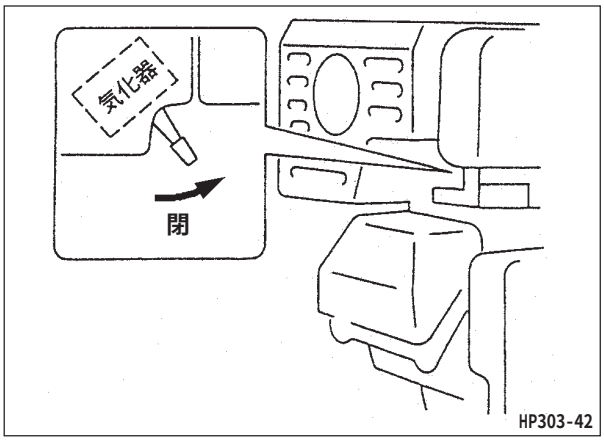
エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

１．エンジンスイッチを「ＯＮ」（Ｉ印）側に押してください。

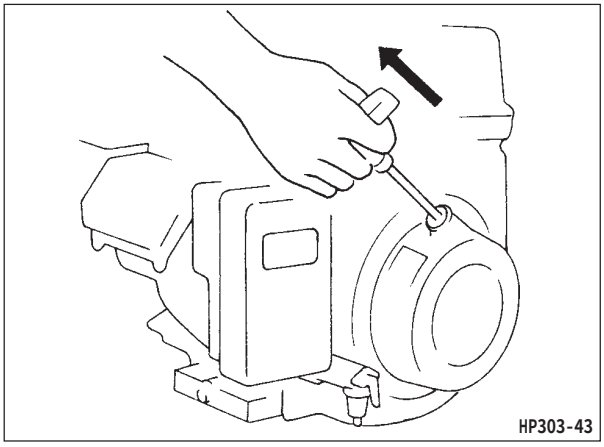
２．燃料のコックを開けてください。



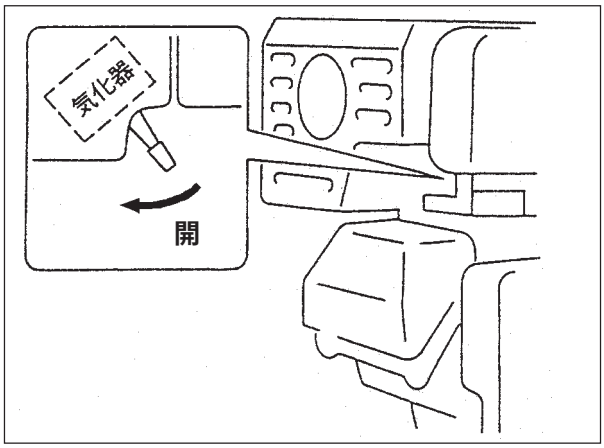
３．スロットルレバーを「高速」の方へ少し動かしてください。



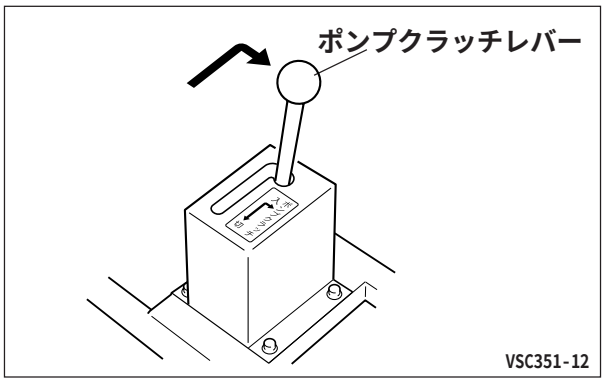
４．チョークレバーを「閉」へ動かしてください。



５．スタータグリップを握り、いきおいよく引いてください。



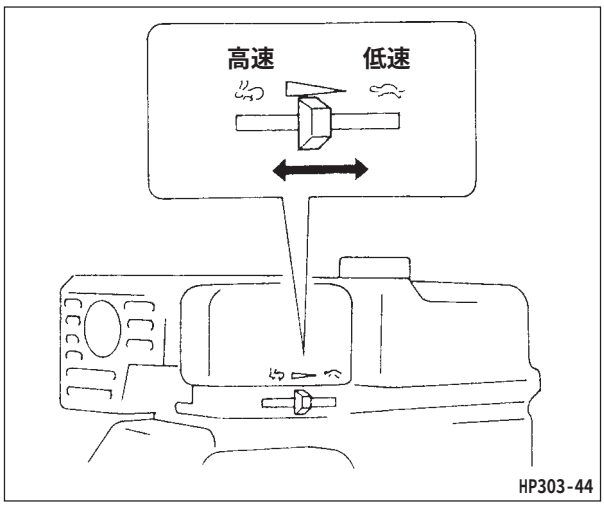
６．エンジンが始動したら、チョークレバーを「開」へ動かしてください。



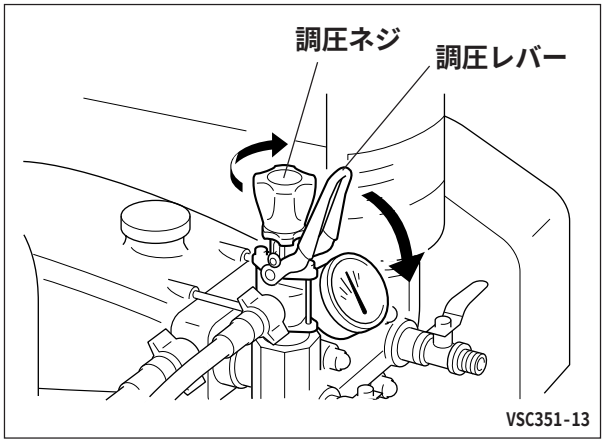
エンジンが始動したら

１．ポンプクラッチレバーを「入」にしてください。動力噴霧機が動きはじめます。

２．動力噴霧機が動き、動力噴霧機内に薬液が循環します。余水ホースからいきおいよく薬液が出ているのを確認してください。



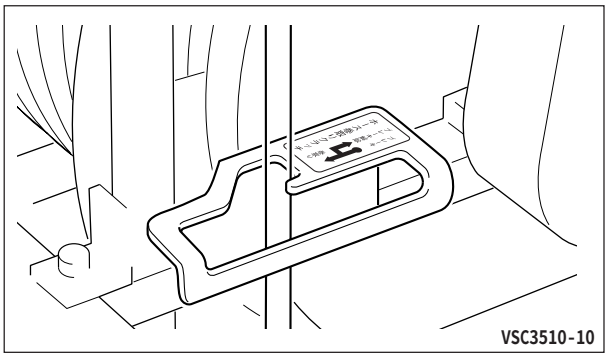
３．スロットルレバーでエンジンの回転を調整してください。回転数を上げるときにはレバーを「高速」の方へ、下げるときには「低速」の方へ動かしてください。



圧力を調整する

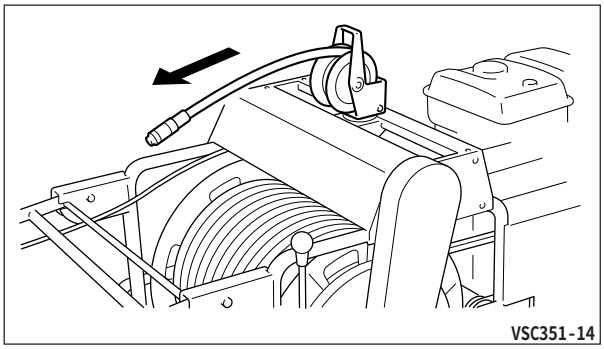
１．調圧レバーを下げ、圧力計を見ながら必要な圧力まで調圧ネジを回してください。

２．右回しに閉め込むと圧力が上がります。

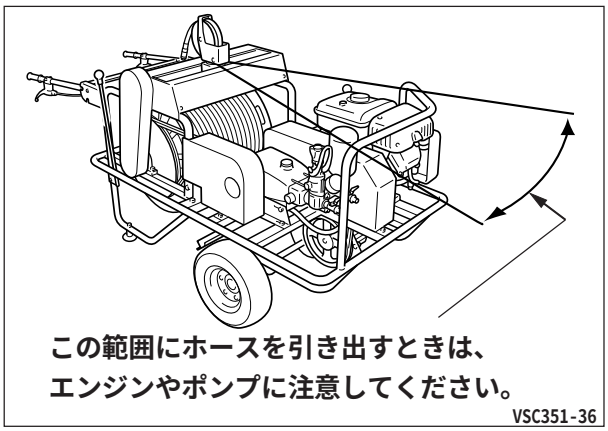

VSC3510-10

スプレーホースを引き出す

１．ホース巻取りレバーを「ブレーキ解除」の位置にします。

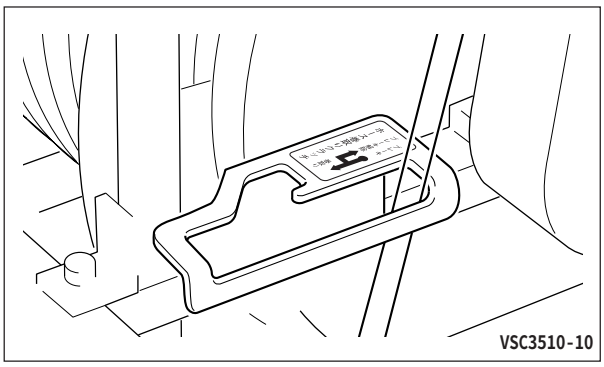

VSC351-14

２．ホースを手で引き出してください。
ホースはゆっくり引き出してください。いきおいよく引き出すとホースリールに巻いてあるホースがたるむことがあります。



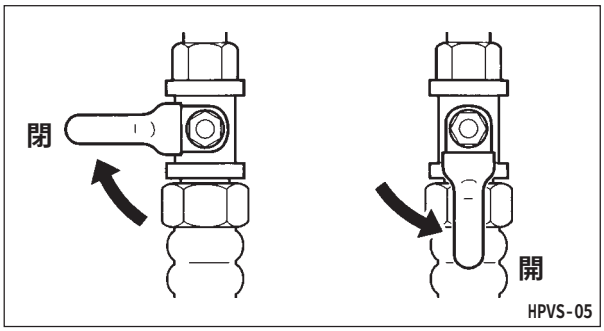
VSC351-36

３．ホースの引き出し方向は３６０°可能ですが、エンジン・ポンプ方向への引き出しは注意してください。ホースがエンジンに接触して溶けることがあります。


VSC3510-10

散布作業をはじめる

１．ホース巻取りレバーを「ブレーキ」の位置にしておきます。ホースリールの不必要な回転を抑制し、スプレーホースのたるみを少なくします。

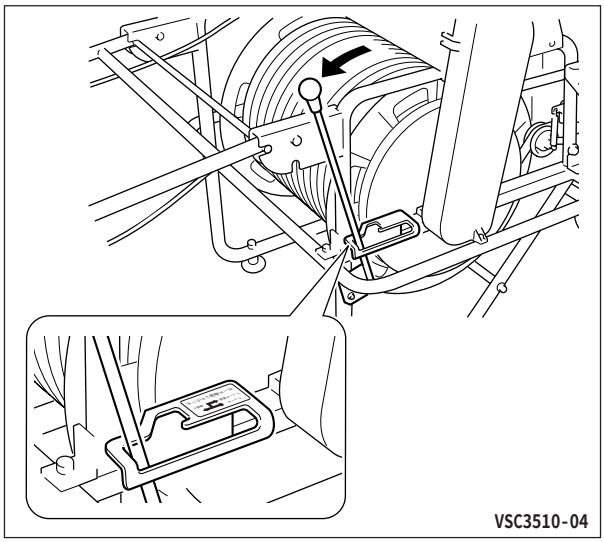


HPVS-05

２．吐出コックを「開」の位置に動かしてください。
散布を止めるときは、吐出コックを「閉」の方へ動かしてください。

⚠ 注　意

ホースの先に、コックまたはノズルが装着され、コック・ノズルが「閉」の状態になっているか確認してください。

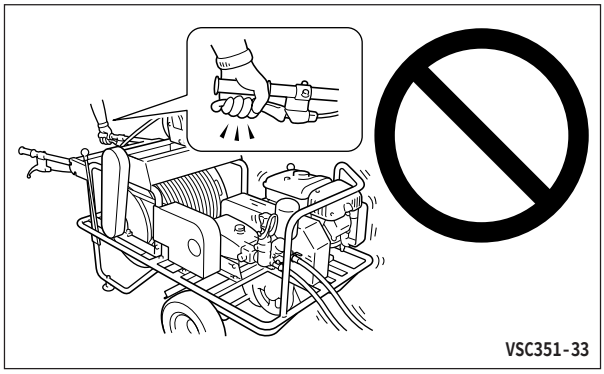


スプレーホースを巻取る

ホース巻取りレバーを「巻取り」の位置へ引いてください。

重　要

- 巻取りのときは、ホースに圧力をかけたまま巻取ってください。圧力を抜いて巻取ると、ホースがつぶれて巻取られ、次に圧力がかかったときにホースリールが破損します。
- スプレーホースに異常な抵抗がかかったまま巻取りを行なわないでください。巻取り装置が破損します。



⚠ 危　険

散布作業中に、走行クラッチレバーを操作しないでください。本機が走行し危険です。

⚠ 注　意

- 動力噴霧機やエンジンに絡み付いた草などを取除くときは、必ずエンジンを停止してください。
- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止して、エンジンが冷えてから行なってください。

重　要

- ５分間以上、カラ運転を行なわないでください。動力噴霧機の寿命を縮め、故障の原因となります。
- ホースが絡まったり、ねじれたりしないように気をつけてください。
- 大型貯水槽や河川から吸水し、長時間使用するとエアチャンバの空気が水に溶け、抜けてしまうことがあります。動力噴霧機の故障の原因となりますので、２時間毎に必ず吸水ストレーナを水から出し、余水ホースから水が出なくなるまで運転してください。

散布作業の停止

調圧レバーを立て、ノズルコックと吐出コックを閉めます。

作業が終わったら

１．吸水ホースをきれいな水の中に入れて噴霧を行ない、噴霧機の内部、ホース、ノズルの清掃を行ないます。

２．動力噴霧機内の水を抜くため、調圧ネジを左に回し無圧にして、吸水ホースを水から出して余水ホースから空気が出るまで運転を続けてください。

重　要

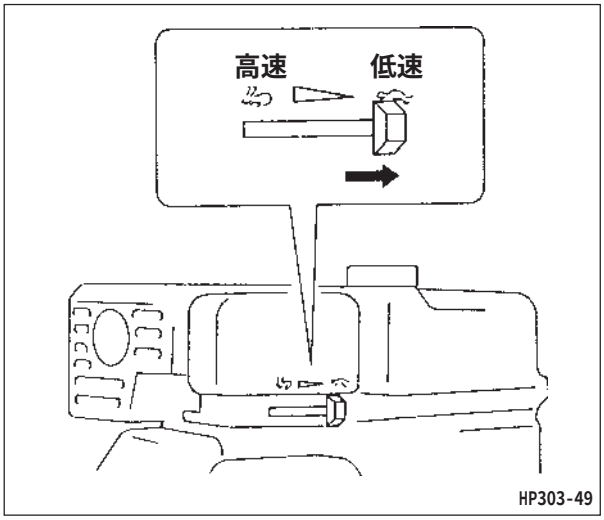
- カラ運転の状態となりますので、５分以上は行なわないでください。
- 冬期間水が凍結する恐れのある地域では、必ず水抜きを行なってください。

３．運転中にプランジャ給油口からオイルを１０滴ほど給油してください。

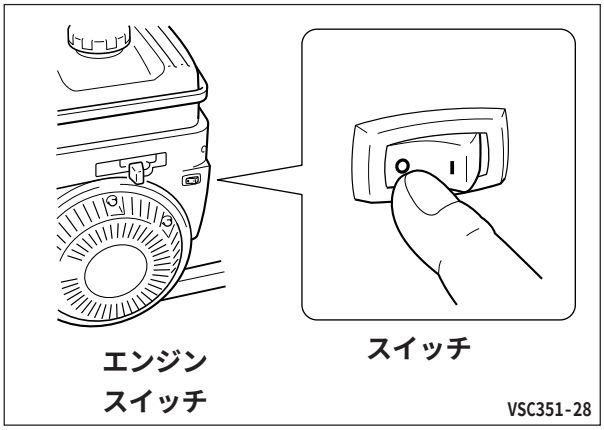
４．ストレーナを次回の作業のため、充分に清掃してください。

エンジンの停止

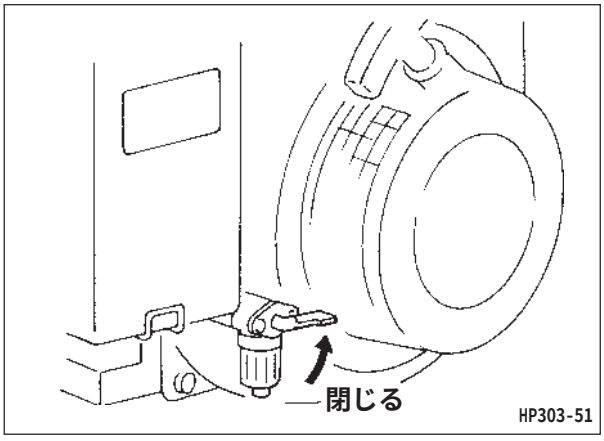
エンジンの取扱説明書を参照してください。



１．スロットルを低速にします。

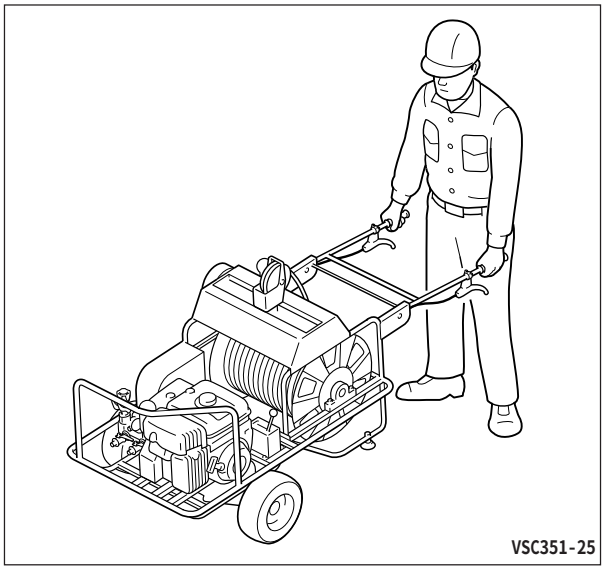


２．エンジンスイッチを、「ＯＦＦ」（「O」印側）に押してください。
＊ストップボタンの場合は、エンジンが停止するまで押し続けてください。



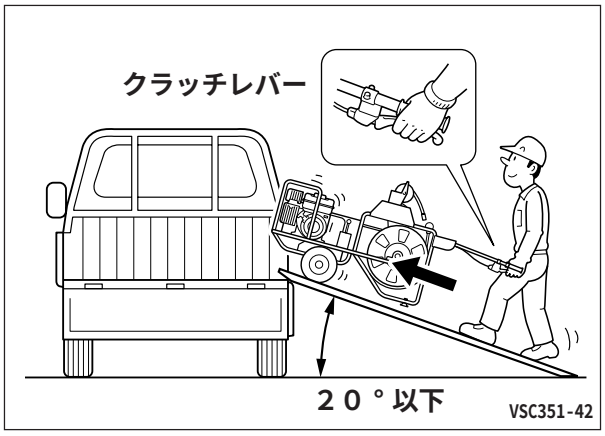
３．燃料コックを閉じます。

輸送・移動時の注意



本機を移動するときやトラックなどで輸送するときには、以下の点を守ってください。

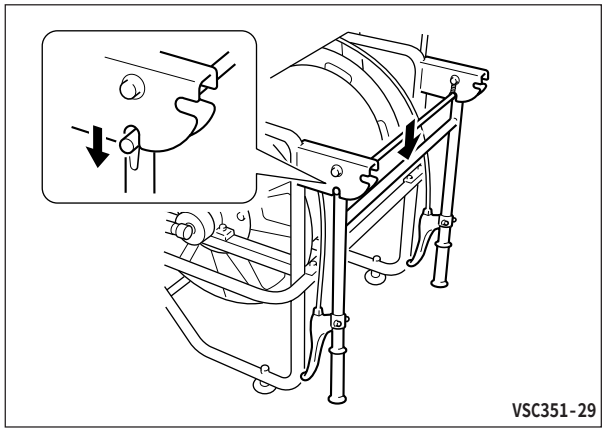
- 使用後に輸送・移動するときには、エンジン、マフラが冷えるまで待ってください。
- 長距離を輸送するときは燃料をカラにしてください。
- 本機に衝撃をあたえないようにしてください。
- ポンプクラッチレバーを「切」にしてください。
- 簡易ブレーキですので、タイヤが濡れているとブレーキの効きが悪くなります。充分注意してください。



- 最大積載量２００ｋｇ以上のトラックを使用してください。
- 平坦地でエンジンを停止し、タイヤに歯止めをしてください。
- アユミ板の傾斜角度は２０°以下にしてください。また、アユミ板は確実にフックに掛けてください。
- 本機を荷台にロープで固定してください。このとき古い毛布を掛けてからロープを掛けると傷が付きにくくなります。
- アユミ板の種類（ハシゴ状）によっては、負荷が大きすぎ登らないことがあります。
  その場合は押すなどして補助してください。

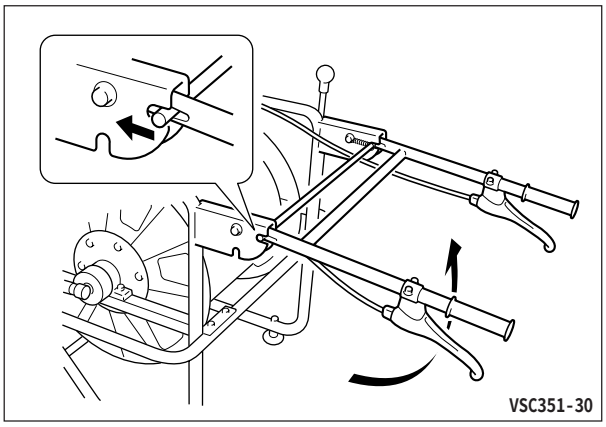
〈アユミ板の条件〉

幅	１００ｃｍ以上（２枚合わせて使用可）
強　度	２００ｋｇ以上（２枚使用の場合、１枚１００ｋｇ以上）
形　状	ハシゴ状で、本機のタイヤが間にはまり込むようなものは不可

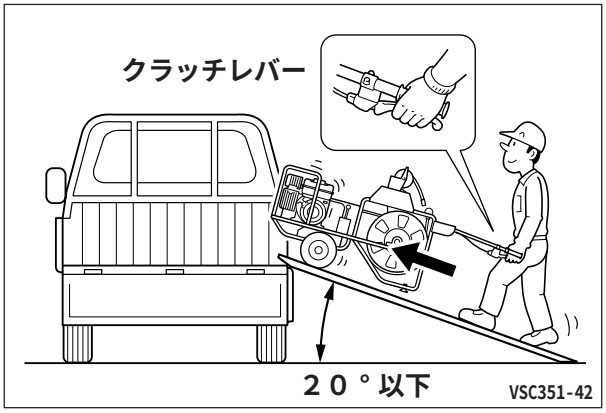


積み込み

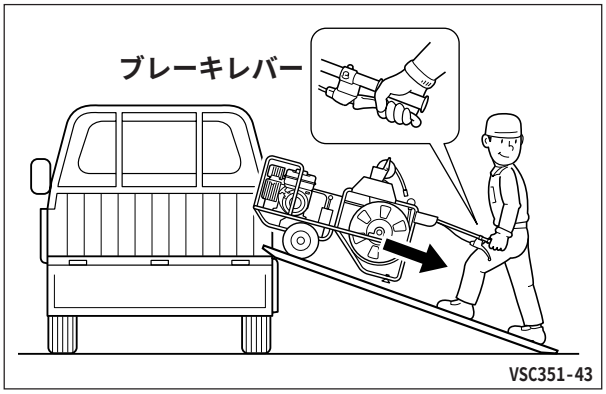
- ハンドル固定レバーを引いて溝から外してください。



● ハンドルを引き上げてハンドル固定レバーを上の溝に確実に入れてください。



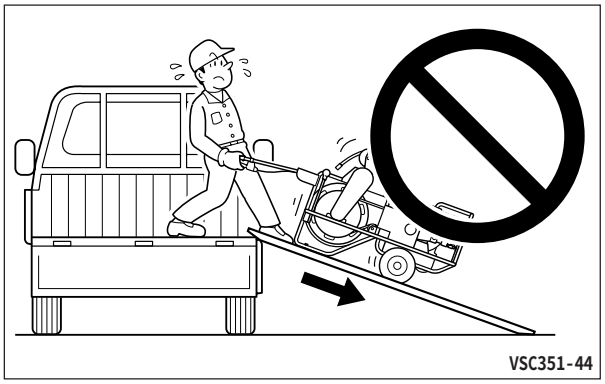
● エンジンのスロットルレバーを低速にしてください。
● エンジンを始動してください。(エンジンの始動方法　１３ページ参照)
● 走行クラッチレバーを握り、低速・前進でゆっくり積み込みを行なってください。



積み降ろし

● 必ずエンジンは停止してください。
● ブレーキレバーを握って､ブレーキを掛けたり、解除したりしながらゆっくりと後進で降ろしてください。

重　要
簡易ブレーキですのでタイヤが濡れていると、ブレーキの効きが悪くなります。



重　要
前進では、本機を降ろさないでください。

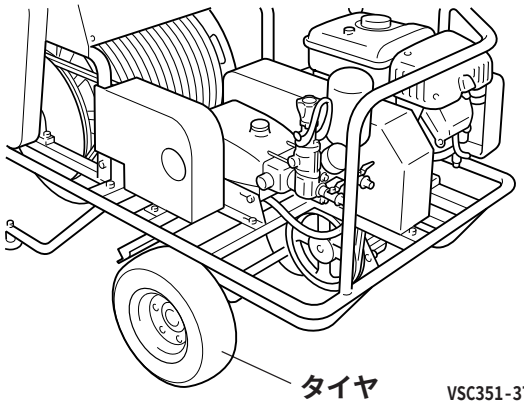
● 降ろしている途中、走行クラッチレバーを操作しないでください。
プーリの溝にベルトが食い込み、機械が動かなくなる恐れがあります。

点検・整備

● 点検・整備は、充分な広さがあり、安定した場所で行なってください。

● タバコ、その他の火気は厳禁です。

部 品 名	整備内容	整 備 時 期
トラバースカム軸	給油	２０時間使用ごと
駆動チェーン	給油	毎年
ホースガイド取付間筒	給油	２０時間使用ごと
ホースガイドローラ	給油	２０時間使用ごと
リール軸受	給油	適時
Ｖベルト	点検・交換	使用時期前

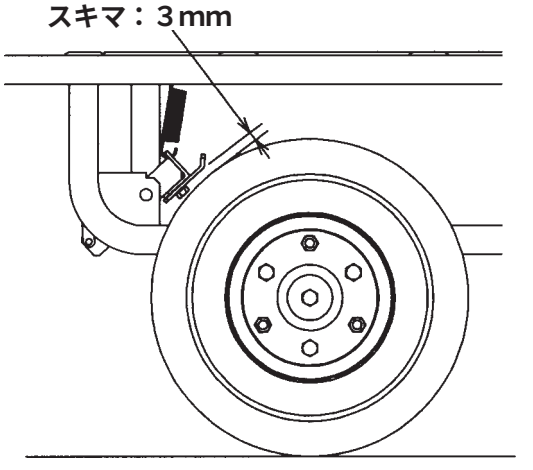


重　要

● この表の期間にしたがって整備・点検を行なってください。ただし、実際の使用条件や使用回数により必要と判断した場合は整備・点検の回数を増やしてください。

● 毎月、毎年の整備・点検を行なった日付を記録してください。

● １年に１回以上は、お買い求めの販売店に、定期点検を依頼してください。



タイヤの点検

（６ヶ月に１回行なってください。）

以下の項目を点検してください。

● タイヤ空気圧：０．１８～０．２ＭＰａ
（１．８～２．０ｋｇｆ／ｃｍ²）

●タイヤに損傷がないこと。

●ホイールボルトがゆるんでいないこと。

重　要

タイヤの空気圧が低いとブレーキの効きが悪くなります。シーズン前には必ず点検を行なってください。

重　要

動力噴霧機、エンジンの取扱説明書にしたがって各部品の保守・整備を行なってください。

ブレーキの調整・点検

（シーズン前に必ず点検してください。）

片効きするようなときは、左右のタイヤとブレーキパットとのスキマが各々３mmになるように調整してください。

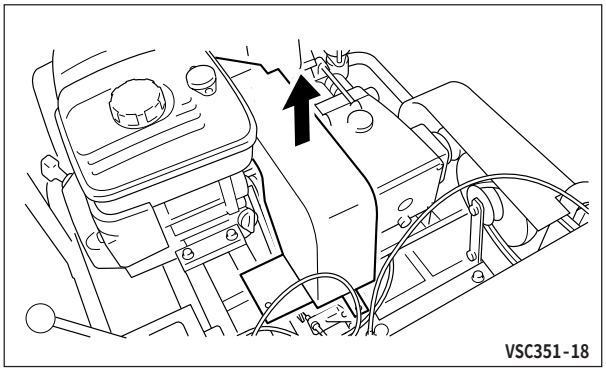
①ブレーキパットを固定しているネジ２本をゆるめます。

②ブレーキパットを上下に動かし適正スキマにします。

③適正スキマになった場所で２本のネジを締め、ブレーキパットを固定します。

④左右均等にブレーキパットがタイヤに当たるか確認します。

Ｖベルトの調整

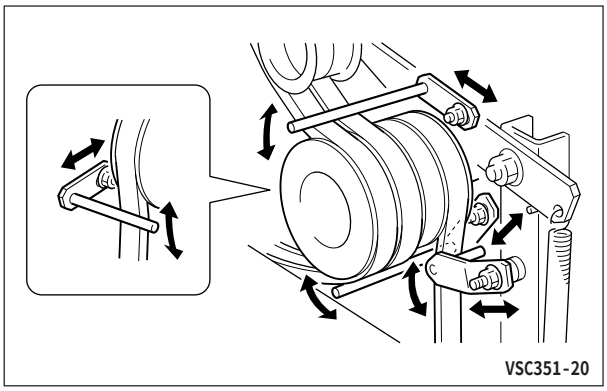

VSC351-18

● エンジンと動力噴霧機および走行変速機の間

・ ベルトカバーの取付けネジを外し、ベルトカバーを外します。

・ エンジンプーリの周辺に４本のベルトガイド（長い棒２本･短い棒２本）がありますので､取付けているネジをゆるめて調整してください。

注：長い棒は動力噴霧機ベルト用で、
短い棒は走行ベルト用です。


VSC351-20

①ポンプクラッチ、走行クラッチを「切」の状態にします。

②ベルトガイドのネジを少しゆるめます。

③エンジンのリコイルを引いてＶベルトの「つれ回り」がしなくなる位置にベルトガイドを調整します。

・ ベルトガイドをドライバやハンマなどで、上下・前後に少しずつ動かし調整します。

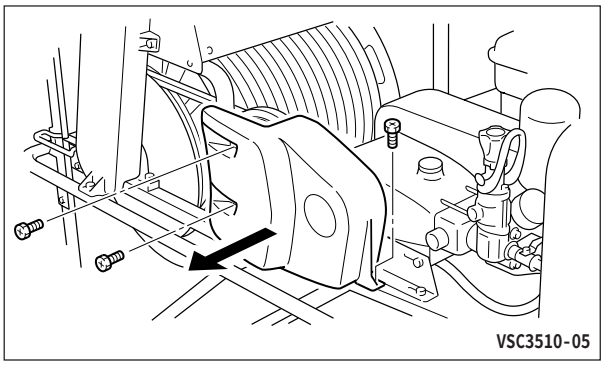
④ベルトガイドのネジを締付けます。

⑤エンジンを運転し、エンジン回転を変化させＶベルトが「つれ回り」しないか確認してください。

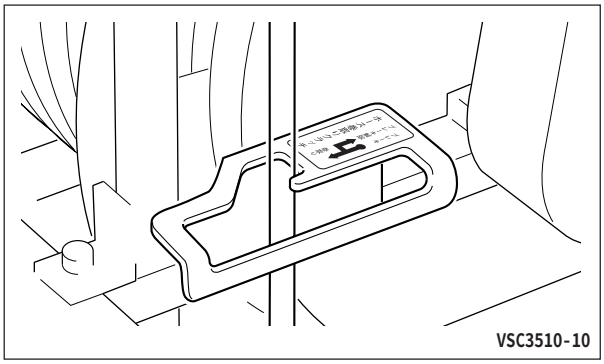
⚠ 警　告

エンジンを運転したままでの調整は、絶対にしないでください。

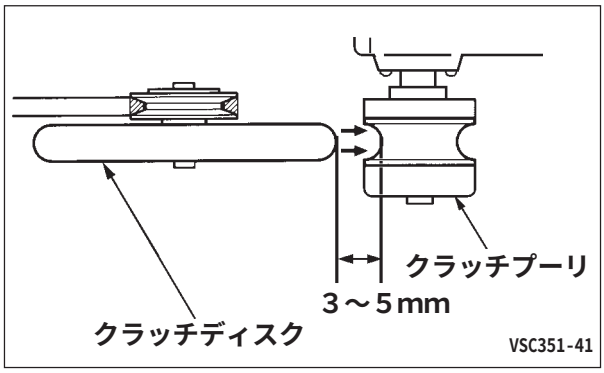
● ホースリールとクラッチプーリの間


VSC3510-05

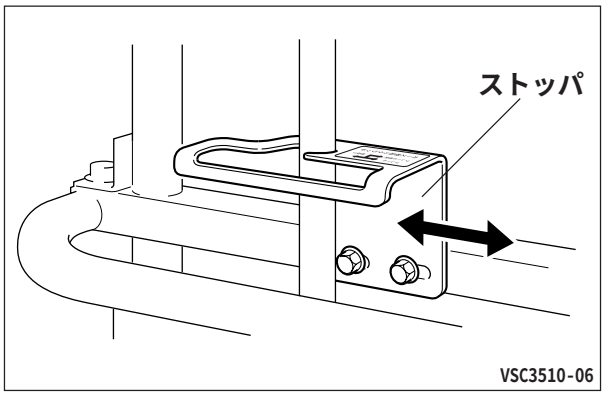
①クラッチカバーの取付けネジを外しクラッチカバーを外します。

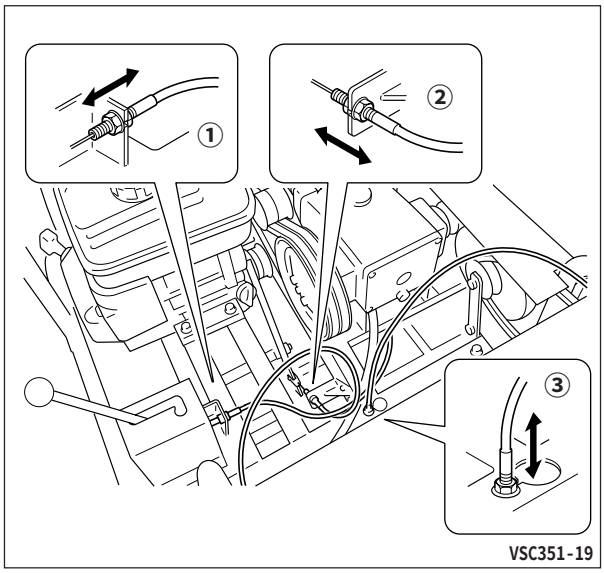

VSC3510-10

②ホース巻取りレバーを「ブレーキ解除」の位置にします。



③ストッパを取付けている２本のネジをゆるめ、クラッチディスクをクラッチプーリとのすき間を３～５mmになるようストッパの位置を調整し、２本のネジを締付けてください。

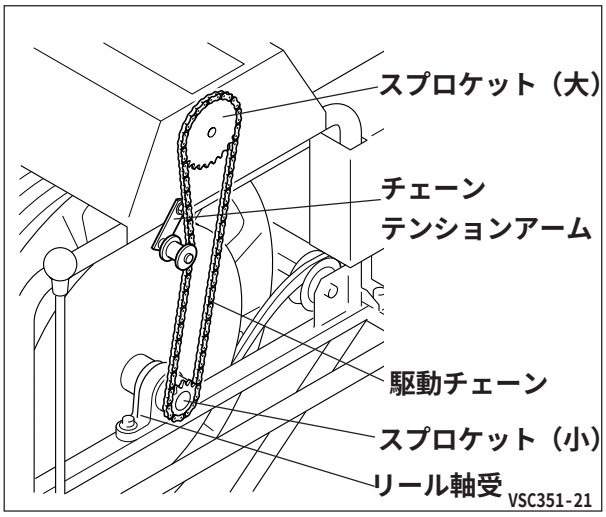




● クラッチワイヤの調整

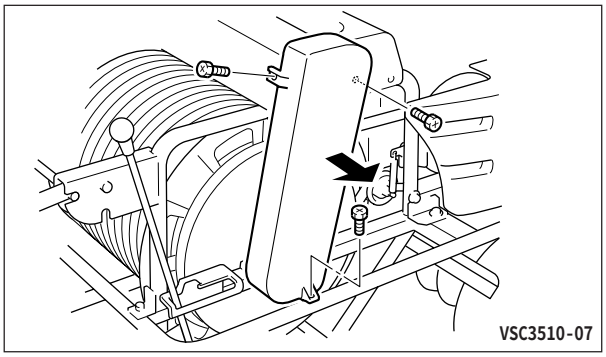
①ポンプクラッチ
②走行クラッチ
③ブレーキ

・ 各々のワイヤについて左図の調整部分を、操作レバーの「あそび」がなくなる所で固定してください。



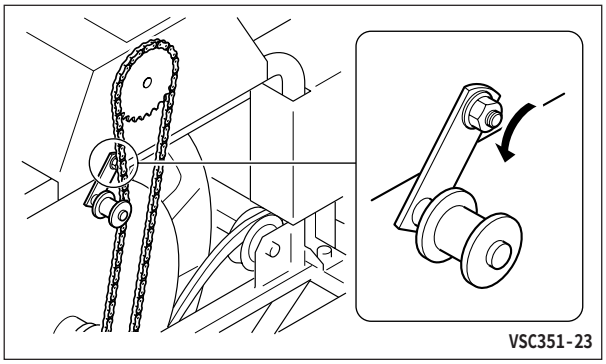
各部の注油

点検･整備の表にしたがって注油を行なってください。

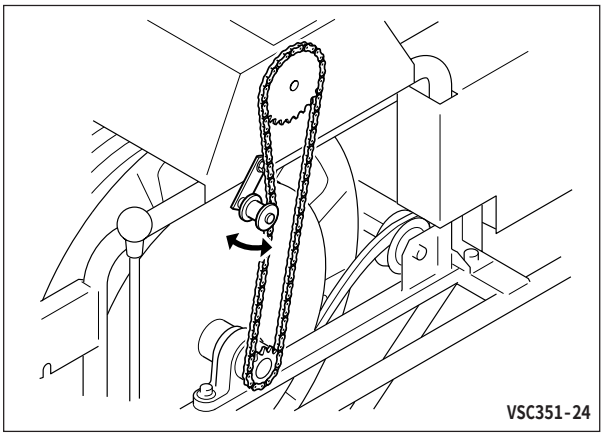


駆動チェーンの調節

１．チェーンカバーを取外してください。

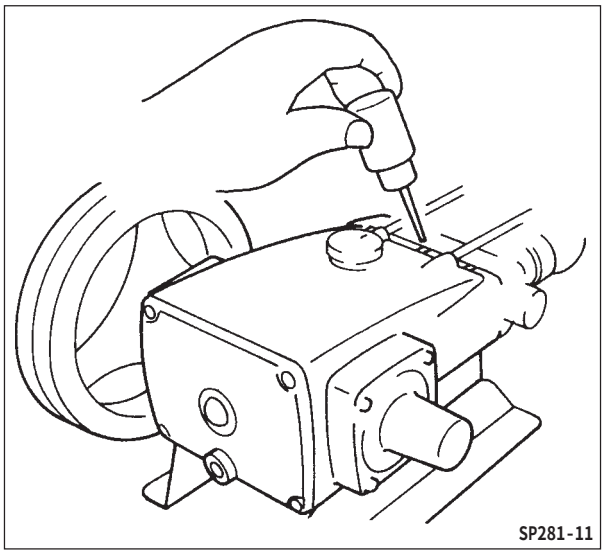


２．チェーンテンションアームのナットをゆるめてください。



３．チェーンテンションアームを動かし、駆動チェーンの張りを調節してください。

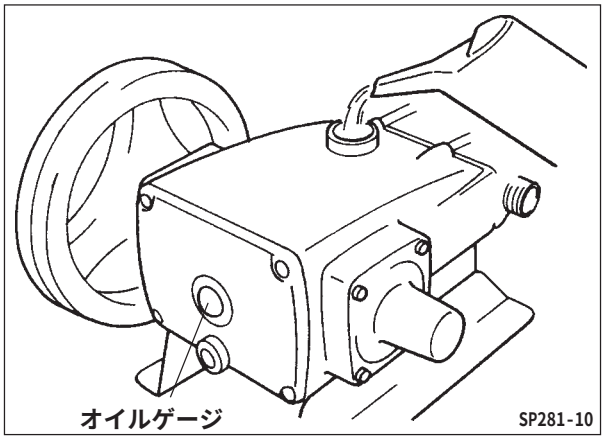
４．チェーンカバーを取付けてください。



プランジャ部分の給油

（５～１０時間使用する毎に行なってください。）

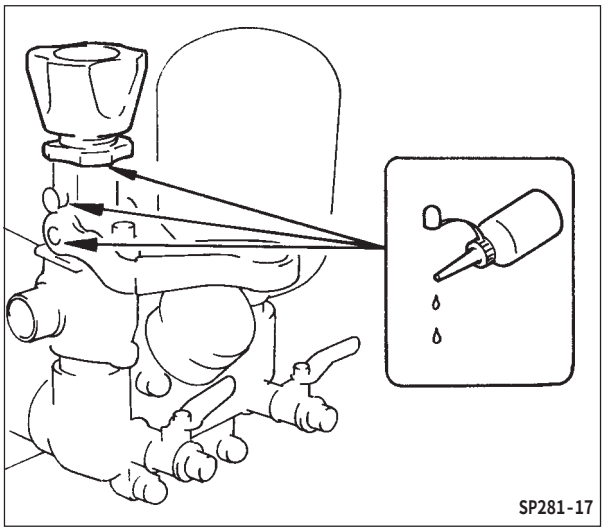
付属のオイラでプランジャ給油口から１０滴ほど給油してください。



クランクケースのオイル交換

（最初は５０時間使用した後に、それ以降は１００時間使用する毎に行なってください。）

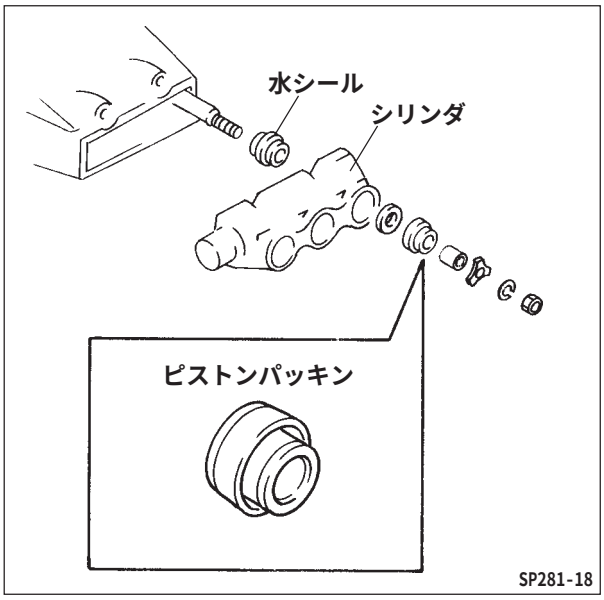
クランクケースのオイルはＳＣ、ＳＤ、またはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０を使用して交換してください。
・規定量……レベルゲージ中央迄約０．５５Ｌ



調圧レバーの周り

（使用時期前に行なってください。）

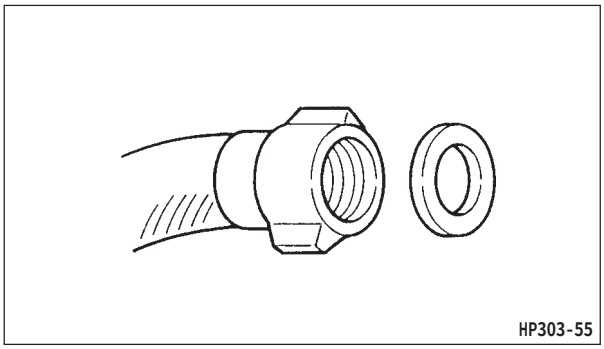
オイラで給油してください。



ピストンパッキン・水シール

長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったときはピストンパッキン･水シールが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

重　要
ピストンパッキンおよび水シールの交換のときに、向きを間違えないようにしてください。



継手パッキン

（毎年、使用する前に点検してください。）

点検し、損傷、摩耗していたら交換してください。

長期保管

長期保管する前には必ず以下の手順にしたがってください。

水抜き

きれいな水を数分間噴霧し､薬液を残さないよう洗浄する。その後、１分間カラ運転を行ない完全に水抜きする。

重　要
冬期間､水が凍結する恐れのある地域では必ず水抜きを行なってください。

保管場所

動力噴霧機は以下のような場所に保管してください。

- 直射日光、熱、火気にさらされない。
- 湿気、ホコリがない。
- 安定している。

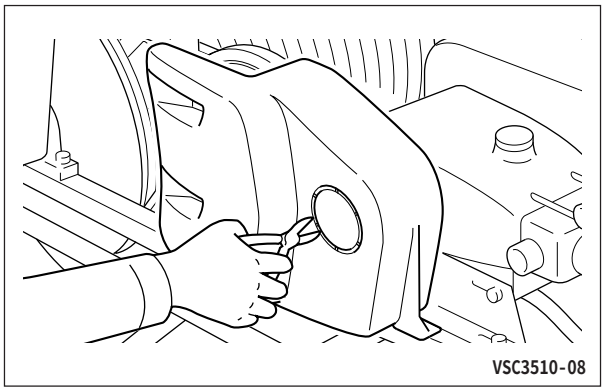
かくはん機を取付ける場合

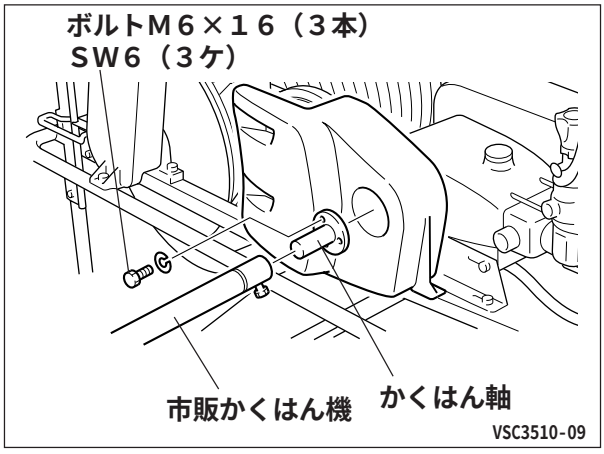
かくはん機は「右回転用」を使用してください。
市販のかくはん機を取付ける場合、かくはん取出し用の軸とネジ（オプション）が必要です。

名称	部品コード	個数
かくはん軸	２５４０１０－２１２５１	１
ボルト	９００１００－０６０１６	３
バネ座金	９００６０５－００００６	３

取り付け方法

１．本機リールベルトカバーのかくはん用動力取出し口部分をニッパーで切取ります。





２．かくはん軸（オプション）をボルトＭ６×１６（３本）とバネ座金ＳＷ６（３ケ）とで本機のポンプ軸端部へ取付けます。

３．市販かくはん機をφ１９用アダプタを使用して取付けます。（かくはん機の取付けは、かくはん機の取扱説明書をよく読んでください。）

故障対策

● 使用中に不具合が起きたときには、エンジンの取扱説明書、または、次の表にしたがって調査の上対策を施してください。

● ご不明の点については、地区共立エコー販売(株)あるいはお買い求めの販売店へご相談ください。

不具合事項	原　因	対　策
吸水しない、または途中から吸水しなくなった。	1）吸水ホースが破損しているか折れている。 2）吸水ホースとニップルとの締付不良またはパッキンの脱落。 3）ストレーナが液面から浮上がっている。 4）ストレーナの周りにゴミが付着している。 5）吸・排水弁に砂、ゴミが付いている。 6）吸・排水弁が摩耗している。 7）吸・排水弁が固着して作動しない。 8）水シールが摩耗して空気を吸っている。 9）シリンダ、弁室の締付ナットがゆるんで合わせ面から空気を吸っている。 10）一旦空気を吸込み、調圧弁が加圧状態のままである。	● 破損していたら交換する。折れていたらのばす。 ● パッキンの入っていることを確かめてから充分締めなおす。 ● 浮上がらないよう固定する。 ● ゴミを除き清水でよく洗う。 ● よく洗い落とす。 ● 摺合わせをするか新品と交換する。 ● 弁と弁座の合わせ面をきれいに洗う。 ● 新品と交換する。 ● ナットを交互に増締めする。 ● 調圧レバーを上げる。
余水から気泡が出る。	1）吸水ホースの取付ネジがゆるんでいる。 2）吸水ホース用パッキンがすり切れている。 3）吸水ホースに穴があいている。 4）シリンダ、弁室の締付ナットがゆるんでいる。 5）水シールが摩耗している。	● パッキンの入っていることを確かめてから充分締めなおす。 ● 新品と交換する。 ● テープなどを巻いて穴をふさぐか、新品と交換する。 ● ナットを交互に増締めする。 ● 新品と交換する。
圧力が上がらない。	1）圧力計の入口孔をゴミで塞いでいる。 2）調圧弁、調圧弁座の合わせ面にゴミが付いている。 3）調圧弁、調圧弁座が甚しく摩耗している。 4）ノズルからの噴霧量が多く余水がない。 5）圧力計が破損している。 6）ピストンパッキンが摩耗している。	● よく掃除する。 ● よく洗い出す。(弁座は裏・表の両面とも使用できます。) ● 新品と交換する。 ● 全吐出量の１０%以上を余水へ戻すようノズルを替える。 ● 新品と交換する。 ● 新品と交換する。

不具合事項	原　因	対　策
圧力計のフレが大きい。	1）ストレーナの周りにゴミが付着している。 2）吸水ホースが折れている。 3）吸･排水弁のいずれかに不具合がある。 4）調圧弁、調圧弁座にゴミが付いている。 5）調圧弁、調圧弁座に傷がある。 6）Ｖベルトがスリップしている。 7）エンジンの回転にムラがある。 8）空気を吸込んでいる。 9）エアチャンバ内の空気が抜けきってエアクッションがなくなっている。	● ゴミを除き清水でよく洗う。 ● 折れを直す。 ● 分解して点検対策をする。 ● よく洗い落とす。 ● 摺合わせをするか新品と交換する。 ● ベルトを張りなおす。 ● エンジンを調整する。 ● ホース金具などを締めなおす。ホースパッキンを確認する。 ● 吸水ストレーナをタンクから取出し、余水ホースから水が出なくなるまで空気を吸わせる。
圧力を調整したのち噴霧を始めると圧力の降下がはげしいとき。	1）下記のいずれかが原因で余水量が吸水量の１０％以下である。(吐出過多) (a)ポンプ回転数が不足している。 (b)噴口が摩耗して噴霧量が多すぎる。 (c)噴頭数が多すぎる。 2）調圧弁抑えの動きが悪い。 3）調圧弁、調圧弁座が甚しく摩耗している。	● 回転を上げる。 ● 新品と交換する。 ● 数を減らす。 ● 分解して掃除をする。 ● 新品と交換する。
クランク室内で異常な音がする。	1）連接棒の締付ボルトがゆるんでいる。 2）プーリと「キー」とにガタがある。 3）クランク室内の部品が脱落破損している。 4）ベアリングが破損している。	● 増締めする。 ● 交換する。 ● 点検補充または交換する。 ● 交換する。
クランク室内に薬液が入る。	1）プランジャ用オイルシールの不良。 2）プランジャの不良。	● 新品と交換する。 ● 新品と交換する。
圧力は下がらないが､余水量が多くノズルから出る量が少ない。	1）吐出または散布ホースが長すぎる。 2）吐出または散布ホースが細すぎる。	● ホースを短くする。 ● ホースを太くする。

仕　様

項　目		単 位	VSC3510	VSC4510
長さ×幅×高さ		mm	1640(1230)× 720 × 910　(　)内はハンドル折りたたみ時	
質量（半乾燥）		kg	114	120
ポンプ	型　式	－	SP351	SP451
	回転速度	r/min	830	
	常用圧力	MPa(kgf/cm²)	4.0(40)	5.0(50)
	吸 水 量	L/min	22	28
エンジン	型　式	－	三菱 GM132LN	三菱 GM182LN
	排 気 量	mL	126	181
	最大出力	kW(PS)	2.9(4.0)	4.4(6.0)
	燃　料	－	ガソリン	
	始動方式	－	リコイルスタータ	
散布ホース		Φ mm × m	8.5 × 100(130)	10 × 130
リール駆動方式		－	摩擦車クラッチ	
走行速度		m/s	0.44 ～ 1.06　（エンジン回転数により可変）	

この仕様は予告なしに変更することがあります。

株式会社 共立

東京都青梅市末広町 1-7-2　〒 198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　〒 004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東 5-1-50　〒 984-0002　☎022-288-0511(代)

両毛共立エコー株式会社
宇都宮市御幸本町 4736-7　〒 321-0983　☎028-661-0431(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町 1-39　〒 452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田 566-159　〒 701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原 5-3-7　〒 816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X753-000 20 2
X753615-090 2